

当院における 訪問相談後の改善点

広島市立安佐市民病院
輸血療法委員会 吉森雅弘

H26.2.15 平成25年度広島県合同輸血療法研修会

安佐市民病院概要①(H25年)

- ▶ 病床数 527床
- ▶ 診療科 内科(血液内科含む)・外科・心臓血管外科・産婦人科・泌尿器科・小児科・脳神経外科・整形外科ほか
- ▶ 1日外来患者数 約800人
- ▶ 血液使用量
 - RCC 5780単位 FFP 1421単位
 - PC 10670単位 自己血 495単位
- ▶ 廃棄率 0.33%(0.85%自己血含む)

安佐市民病院概要②(H25年)

- ▶ 全身麻酔手術件数 3478件
- ▶ 心臓手術件数 127件 (胸部ステント留置術含)
- ▶ 輸血管理料
 - 輸血管理料Ⅱ取得(H18年～)
 - 輸血適正使用加算取得(H24年～)
 - 血漿/赤血球=0.20(0.27未満)
 - アルブミン/赤血球=1.86(2未満)

広島医療圏北部を中心とした2次救急指定病院

訪問相談当日

- 15:00 挨拶
文書等確認、ヒアリング
- 16:00 使用量が多い部署の視察
ICU・手術室・血液内科病棟・救急外来
- 17:00 講評
- 17:20 研修会 (広島大学 藤井先生)

訪問相談後の指摘

- ▶ 輸血療法委員会の形式について
- ▶ 輸血管理料Ⅰの取得について
- ▶ 使用済みバック保存について
- ▶ 輸血後感染症検査への取り組みについて
- ▶ 病院職員への周知方法について
- ▶ 輸血の必要性と効果判定の記載について

輸血療法委員会の形式について

- ▶ 委員会メンバー 10名(H25年度)
 - 委員長 副院長(麻酔科)
 - 医師1名(血液内科)
 - 看護師長3名(中央処置室・OP室・血液内科病棟)
 - 看護師1名(認定臨床輸血看護師)
 - 薬剤師1名
 - 臨床検査技師2名(認定輸血検査技師1名)
 - 事務1名

開催形式は、院内LANを用いたメール配信会議だった

輸血療法委員会の形式について

「対面形式でその場で意見を出し合える形式が望ましい。」と指摘



2ヶ月に1回、対面形式に変更(H25.6月～)
会議資料は1週間前に配布し会議時間を短くした
※月報や緊急を要する議題などはメール配信会議で行っている

輸血管理料 I の取得について

「輸血管理体制及び使用状況は概ね良好。管理料 I 取得を検討して下さい。」と指摘



院内幹部会議・医事課に打診



専任の常勤医師の確保が困難
管理料 I は取れていない

使用済みバック保存について

副作用が遅れて出現した症例で廃棄ボックスから回収したことがあった

「輸血後の使用済みバック保存について検討して下さい」と指摘



ICTと看護部に相談

使用済みバック保存について

H25.6月～

- ▶ 救急外来・ICU・手術室・南病棟・北病棟に回収ボックスを設置
- ▶ 夕方、検査技師が回収
- ▶ 検査室で冷蔵保管
- ▶ 1週間後廃棄

感染対策(ICT対策)がネックだった
※ただし、輸血中に副作用が起こった場合は、すぐに検査室へ送る

輸血後感染症検査の 取り組みについて

「輸血後感染症検査のおすすめ」の用紙はあったが利用されていなかった

「輸血後感染症検査の必要性について、説明が望ましい」と指摘



看護部に相談

輸血後感染症検査の 取り組みについて

H25.5月～

- ▶ 初回輸血の場合、患者へ説明してもらうよう担当医へ電子カルテ掲示板に記載
- ▶ 担当医は掲示板確認後、用紙を印刷し説明を行う
- ▶ “控え”を検査部へ送り、エクセルで管理する



しかしながら……

輸血後感染症検査の 取り組みについて

- ▶ 開始後半年間の説明実施率は43%だった
- ▶ 委員会に報告し、改善策を考える



認定看護師から、「看護師が説明しても良いのでは？」と提案が出された

輸血後感染症検査の 取り組みについて

H26年2月～変更
入院輸血の場合

- ▶ 初回輸血の場合、患者へ説明してもらうよう担当医および看護師へ電子カルテ掲示板に記載
- ▶ 用紙は検査部で印刷し、各病棟へ送る
- ▶ 掲示板および用紙を確認後、主に看護師が説明
- ▶ “控え”を検査部へ送り、エクセルで管理する

輸血後感染症検査の 取り組みについて

H26年2月～変更

外来輸血の場合

- ▶ 初回輸血の場合、輸血同意書と同時に主治医が説明を行う
- ▶ “控え”を検査部へ送り、エクセルで管理する

頻回輸血の場合

- ▶ 説明後、3か月毎に掲示板へ記載
説明等は主治医の判断に任せる

まとめ

- ▶ 訪問相談を受けることにより、委員会のモチベーションが上がった
- ▶ 取り組むべき内容が具体的に分かった
- ▶ 改善していく中で、委員および看護部の協力体制が確立した

大変だったのも事実です。。。

ご静聴ありがとうございました